

第344回定例県議会提出

公立大学法人奈良県立大学中期目標

奈良県
(令和2年11月30日)

目 次

前文	1
第1 中期目標の期間	2
第2 基本的な考え方	2
第3 目標の設定	
(大学の教育研究等の質の向上に関する事項)	
Ⅰ 教育	
1 教育内容の充実	3
2 教育の質保証	4
3 学習環境及び教育環境の充実	4
4 附属高校の教育の充実と高大接続の推進	5
Ⅱ 研究	
1 研究力の向上	5
2 研究推進体制の充実	6
Ⅲ 地域連携	
1 地域のステークホルダーとの関係構築	6
2 地域のシンクタンクとしての機能充実	7
3 学び直しの機会の提供	7
Ⅳ 国際交流	
1 海外の大学との研究・教育交流の充実	8
(自己点検・評価、業務運営・財務内容の改善、情報の提供等に関する事項)	
Ⅴ 法人運営	
1 ガバナンス体制の充実	8
2 健全で安定的な法人運営	9
3 働き方改革の推進	9
4 情報発信の推進	9

前 文

公立大学法人奈良県立大学（以下「法人」という。）が設置する奈良県立大学（以下「県立大学」という。）は、「奈良の再発見を通して日本と世界に貢献する」を建学の精神とし、「地域から学び、地域貢献する」ことをモットーに少人数制とフィールドワークに重点をおいて、地域の未来創りに貢献する人材を輩出しています。

公立大学法人化した平成 27 年度から 6 年間の第 1 期中期目標期間においては、県立大学独自の教育制度である「学習コモンズ制（学問領域ごとに学生と教員が集う学びの共同体）」による「少人数対話型教育」の着実な実施、フィールドワークの必修化による地域と連携した学びの機会の創出、奈良県立大学リポジトリ（研究や学習の成果を学内外に公開するためのデータベースシステム）への論文等の登録による研究成果の発信、奈良県立大学シニアカレッジの実施による県民に対する生涯学習機会の提供、コンプライアンス体制や危機管理体制の整備など、一定の成果を挙げてきました。

一方、社会を取り巻く状況が変化中、地域社会のあり方も各分野において様々な変化への対応が求められており、地域社会を今後も発展させていく中において、それを支えていく地域リーダーが求められています。

このため、県立大学において、経済・社会・行政など、地域の各分野で活躍する地域リーダーを育成することを今後の長期的なミッションとし、県立大学から輩出される人材が生涯にわたって地域を中心として活躍できるよう、県から法人に対して求めることとしました。

このミッションの達成に向けて、令和 3 年度から 6 年間の第 2 期中期目標では、第 1 期の成果や課題を踏まえつつ、「教育」「研究」「地域連携」「国際交流」「法人運営」の 5 つの柱立てのもと、具体的な目標を定めました。

この中期目標に基づき法人が立てる具体的な中期計画について、PDCA サイクルにより検証していきます。

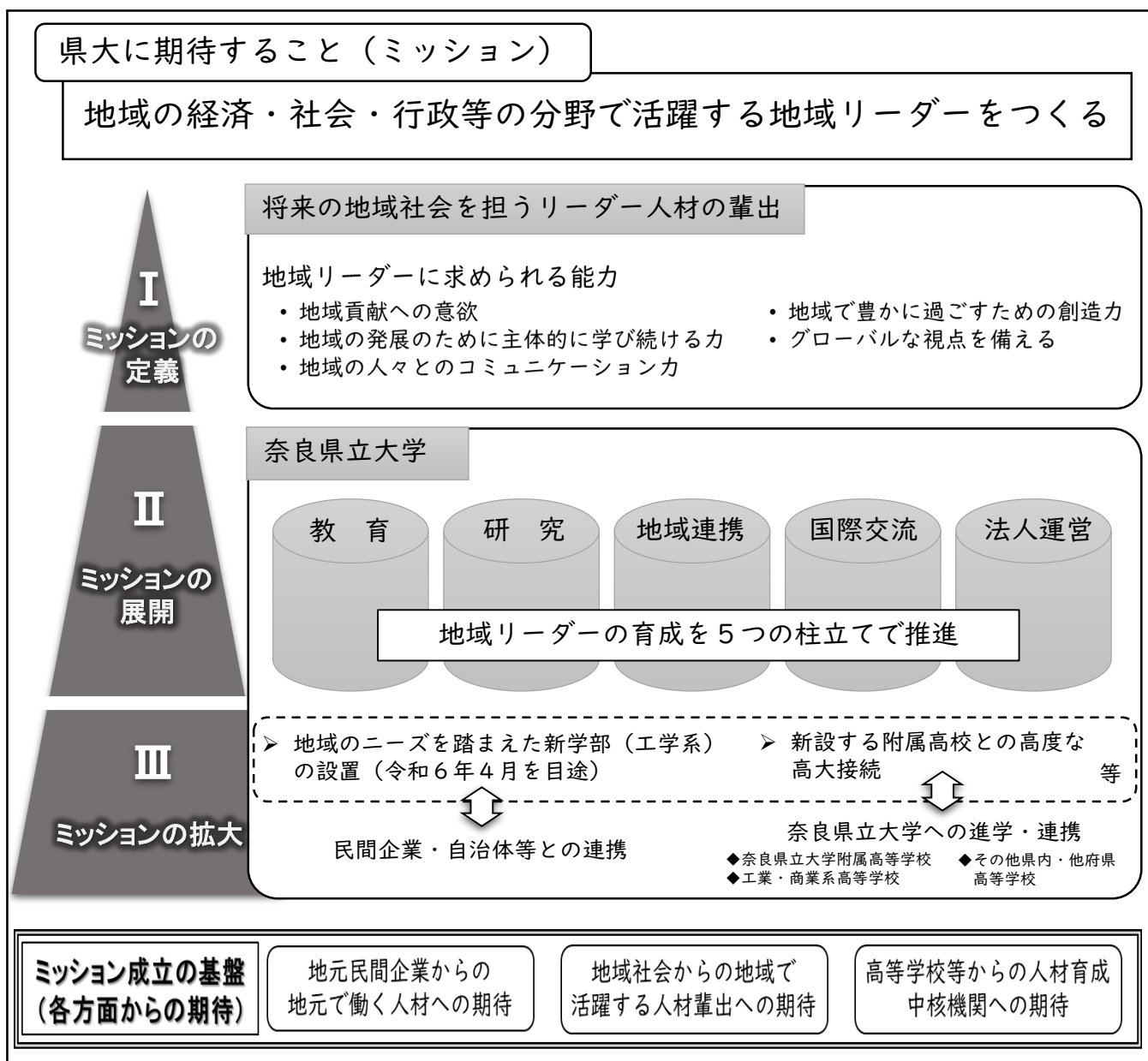
法人が、全教職員一丸となって第 2 期中期目標の達成に向けて取り組み、大いに飛躍されることを期待します。

第1 中期目標の期間

令和3年4月1日から令和9年3月31日までの6年間とする。

第2 基本的な考え方

本中期目標期間において、県立大学に期待することを以下のとおり定め、その実現のために「教育」「研究」「地域連携」「国際交流」「法人運営」の5つの柱立てのもと、目指す方向性を定め、具体的な目標を設定し、その達成に向け取り組む。



第3 目標の設定

I 教育

【目指す方向性】

地域リーダーを育成する教育の推進

- 時代の潮流に対応できる教養を備え、ローカルかつグローバルな視点で活躍できる人材の育成
- 主体的に学び、課題を発見・解決する創造的な能力をもつ人材の育成
- 附属高校における地域リーダーに求められる能力の基盤形成

価値目標Ⅰ	教育内容の充実
-------	---------

- ・ コミュニケーション能力の向上や、地域への理解を深め、地域で学び実践することへの意識と行動力をもつ人材の育成
- ・ 語学教育の充実による海外留学の推進、実践型英語教育の実施など国際社会でも通用する人材の育成
- ・ 専門科目に繋げる教養教育の体系化と提供科目の充実
- ・ 地域のニーズを把握し、地域等で活躍する人材を育成するための新学部（工学系）の設置（令和6年4月を目途）
- ・ 大学院など新たな教育組織の設置に向けた検討

実現目標	
(1) ゼミ活動の充実により、主体性や協働する力の涵養	定性的目標
(2) AL（アクティブ・ラーニング）やPBL（課題解決型学習）の実施	R8年度目標 400件
(3) 語学教育プログラムの開発と実践	定性的目標
(4) 英語教育の強化	定性的目標
(5) 教養教育の体系化とそれに基づくリベラルアーツ科目の配置	定性的目標
(6) 地域のニーズを踏まえた新学部（工学系）の設置（令和6年4月を目途）	定性的目標
(7) 大学院設置に向けた検討	定性的目標

価値目標 2	教育の質保証
---------------	---------------

- ・ 教員と学生が協働で授業の質向上を目指す仕組みを構築するとともに、教員の多面的評価の実施など評価手法の高度化の推進
- ・ 大学の内部質保証のための教学マネジメントの推進

実現目標	
(1) F D研修の充実	定性的目標
(2) 教員の任用制度の多様化とその活用	定性的目標
(3) 教員の多面的評価の実施	定性的目標
(4) 教学IR機能の充実	定性的目標
(5) 学修成果を可視化する手法の検討と実施	定性的目標

価値目標 3	学習環境及び教育環境の充実
---------------	----------------------

- ・ メンタルヘルスカウンセリングやキャリア教育の体系化など学生生活に対するサポート体制の充実
- ・ 学生のニーズを把握し、学内 I C T 環境整備や附属図書館の機能拡充など修学環境の改善

実現目標	
(1) 学習、成績に関する相談体制の充実	定性的目標
(2) メンタルヘルスやハラスメントなどの相談体制の充実	定性的目標
(3) 就職希望者の就職率	期間毎年度 <u>国公立大学の 平均値以上</u>
(4) インターンシップ等の就業体験の充実	定性的目標
(5) キャリア教育の体系化	定性的目標
(6) 新たな大学整備計画に基づく施設整備の推進	定性的目標
(7) 多様な学生のニーズに応える修学環境の改善	定性的目標
(8) 学内 I C T 環境の整備	定性的目標
(9) 学習支援機能等を拡充した附属図書館の整備	定性的目標

価値目標 4	附属高校の教育の充実と高大接続の推進
---------------	---------------------------

- ・ 附属高校において県立大学の建学の精神を踏まえ、課題探究型の学びを通じて自ら課題を発見し、解決する姿勢を身につけた人材の育成
- ・ 生徒が直接大学教員の講義を受講するなど、大学や社会との接続を意識した、高度な高大接続教育の実践

実現目標	
(1) ICTの活用や、反転学習を前提としたALの充実などによる主体的な学びの推進	定性的目標
(2) 課題探究型の学びを支える高校・大学教員連携体制の推進	定性的目標

II 研究

【目指す方向性】

地域リーダーの育成に資する研究の推進

- 現代社会の課題への歴史的・理論的・実践的な探究
- 共同研究や組織的な支援による活発な研究活動の推進

価値目標 1	研究力の向上
---------------	---------------

- ・ 論文執筆・学会発表を促進し、第1期中期目標期間において取組を進めた「奈良県立大学リポジトリ（研究や学習の成果を学内外に公開するためのデータベースシステム）」を通じた研究成果の積極的な公表
- ・ 外部機関等との共同研究の実施、学生の研究への参画の推進や教員評価の充実を通じて、研究水準の向上を図る

実現目標	
(1) 研究成果の論文公表	期間毎年度 <u>公表数 30編</u>
(2) 研究成果の学会発表	期間毎年度 <u>国内発表 30件</u> <u>海外発表 3件</u>
(3) 共同研究、受託研究等の実施	期間毎年度 <u>実施件数 10件</u>
(4) 教員の多面的評価の実施（再掲）	定性的目標

価値目標 2	研究推進体制の充実
---------------	------------------

- 研究活動を効果的・効率的に進めていくために、プロジェクトの企画・運営、知的財産の管理・運用等の研究支援業務を行う研究マネジメント人材であるURA（リサーチ・アドミニストレーター）による支援等による競争的研究資金の獲得など、研究活動活性化のための研究支援組織の充実

実現目標	
(1) 科学研究費補助金の申請促進	R8年度目標 <u>申請者率</u> <u>90%以上</u>
(2) URA（リサーチ・アドミニストレーター）の活用等による研究支援体制の充実	定性的目標

Ⅲ 地域連携

【目指す方向性】

地域社会との連携を通じた地域リーダーの育成

- 地域のステークホルダーと連携し、教育・研究活動を通じた地域社会への貢献
- 大学が有する知見、資源の活用による地域への還元

価値目標 1	地域のステークホルダーとの関係構築
---------------	--------------------------

- 教員・学生と産学公民各団体とが連携して取り組む調査研究・社会活動事業の促進
- 県民講座、研究フォーラム、地域活動報告会などを通じた社会的課題の共有と知的交流の推進
- 模擬講義、高大連携のワークショップやフィールドワーク等を通じた高等学校との連携強化

実現目標	
(1) 産学公民各団体との連携事業の推進	R8年度目標 <u>連携数 40件</u>
(2) セミナー、フォーラム、シンポジウム等の開催	R8年度目標 <u>開催件数 6件</u>
(3) 高大連携事業の充実	期間毎年度 <u>連携数 8件</u>

価値目標 2	地域のシンクタンクとしての機能充実
---------------	--------------------------

- 大学が有する地域創造に関する知見を最大限に活かした地域のシンクタンク機能を果たす仕組みづくりの推進
- 地域創造研究センターの活動を通じた地域社会への貢献の充実

実現目標	
(1) 地域創造に関する研究の件数	期間毎年度 10件
(2) 地域創造研究センターとURA機能の充実	定性的目標
(3) 地域創造研究センターの活動・成果の教育への還元	定性的目標

価値目標 3	学び直しの機会の提供
---------------	-------------------

- 地域における生涯学習の拠点として、学びの意欲を持つ県民への学び直しの機会を提供
- 大学の知見、資源を活用した全世代の生涯学習機会の充実

実現目標	
(1) 奈良県立大学シニアカレッジの継続実施	定性的目標
(2) 出前講義等の充実	R8年度目標 実施件数 50件

IV 国際交流

【目指す方向性】

グローバルな視点を持った地域リーダーの育成

- グローバルな視点を持ち国際社会で活躍できる人材の育成
- 海外の大学との学術交流による研究水準の向上

価値目標Ⅰ	海外の大学との研究・教育交流の充実
-------	-------------------

- ・多様な留学機会の提供とサポート体制の充実や、海外の大学・研究者との学術交流の促進

実現目標	
(1) 留学生の受入と派遣数	期間毎年度 受入数 10人 派遣数 30人
(2) 多様な留学機会の提供とサポート体制の充実	定性的目標
(3) 国際セミナー、シンポジウム、研究会等の開催	期間毎年度 開催回数 2回

V 法人運営

【目指す方向性】

地域リーダーの育成を支える法人運営

- 持続可能で安定的な法人運営の維持継続

価値目標Ⅰ	ガバナンス体制の充実
-------	------------

- ・理事長と学長がリーダーシップを発揮した機動的な大学改革に取り組むとともに、県民に信頼される法人運営の推進

実現目標	
(1) コンプライアンス体制の強化	定性的目標
(2) 自己点検評価や外部評価等を踏まえた業務運営の実施	定性的目標
(3) 学長裁量経費の効果的な活用	定性的目標
(4) 教育、研究、法人運営等に係る情報公開の推進	定性的目標
(5) 監事監査及び内部監査の継続実施	定性的目標

価値目標 2**健全で安定的な法人運営**

- ・ 受託研究収入などの外部資金獲得等による自主財源の確保を含めた安定的な財務状況の維持など健全な財政の確保

実現目標

(1) 経済性、効率性、有効性を踏まえた財務運営	定性的目標
(2) 目的積立金の効果的な活用	定性的目標
(3) 寄付金、外部資金等の自主財源の確保	期間中年平均 12,000千円

価値目標 3**働き方改革の推進**

- ・ 教職員が自身の能力を最大限に発揮できるような職場環境を実現するため、事務系基盤システム等各種システムの適正な運用による業務の効率化や、教職員の意識改革、資質向上による働き方改革の推進

実現目標

(1) 計画的な事業実施や人事制度改善の推進	定性的目標
(2) システム化や外部委託の促進による業務の効率化	定性的目標
(3) SD研修等の実施	期間毎年度 回数 2回 受講率 70%

価値目標 4**情報発信の推進**

- ・ 大学活動を積極的に発信するなど、大学の知名度及びブランドイメージの向上

実現目標

(1) メディアへの発信と波及	R8年度目標 発信 30件 報道 100件
-----------------	---